



●司会

高橋 良輔 先生

Ryosuke Takahashi

京都大学大学院医学系研究科
臨床神経学 教授

水野 美邦 先生

Yoshikuni Mizuno

順天堂大学 名誉教授

柳澤 信夫 先生

Nobuo Yanagisawa

信州大学 名誉教授 /
関東労災病院 名誉院長

葛原 茂樹 先生

Shigeki Kuzuhara

三重大学 名誉教授 /
鈴鹿医療科学大学
大学院医療科学研究科長

パーキンソン病治療の歴史を 振り返る

現代医学におけるパーキンソン病（PD）研究は、200年前にJames Parkinsonが発表した論文から始まった。現在に至るまでの間に、ドパミン神経細胞の脱落が疾患の原因であること、レビー小体や原因遺伝子の発見など、さまざまな研究が行われ、病態の解明が進むにつれて、治療も進歩している。そこで今回の座談会では、わが国の神経内科の医療を作り上げてきた先生方に、PD治療の歴史、PD治療薬の登場時のインパクト、現状の課題、そして今後のPD診療を担う若い世代に期待することをご討議いただいた。